

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

取組	<p><b>授業構想シートを活用した授業づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構想シートは、探究的な学びの流れを基本に、生徒がどのように学ぶかを記述できるようにした</li> <li>・ めあてとまとめが対応しているかなどが確認できるように構造的に示した</li> <li>・ 生徒が到達するゴールの姿をより具体的に示すために、ルーブリックを作成し生徒と教師が共有するようにした</li> <li>・ 学びの過程での教師の手だてを吹き出しで記述することで、ICTの活用場面等を示した</li> <li>・ 教科部会等で、授業構想シートを活用して授業検討等を行った</li> </ul>	<p>授業構想シート -大村中2023版-</p> <p style="text-align: right;">授業者 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                    </span></p>				
	<p>1年2組 英語科      題材    PROGRAM 9 A Trip to Finland      令和6年2月9日(金)</p>					
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業構想シートを活用することで、授業づくりをフレームワーク化でき、共通の視点をもって授業検討を進めることができた</li> <li>・ 学びの過程に「めあてへのアプローチ」を位置付けたり、ルーブリックを生徒と共有したりすることで、生徒が目指すゴールをとらえ主体的に学ぶことができた</li> <li>・ 授業構想シートを用いて授業づくりを行うことで、教師の授業デザイン観の転換を進めることができた</li> </ul>	<p><b>今後の改善点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見方・考え方を働かせた見通しのもたせ方を実践を通して具体化していく</li> <li>・ 探究の過程を重視し「思考力・判断力・表現力」を育てるためには、単元を構想する必要があることから、単元構想シートを開発する</li> <li>・ 学びの過程において、生徒のICT活用の具体を蓄積し、それらを基に生徒自身が選択し活用できるようにする</li> <li>・ 「授業構想シートの手引き」を改訂し、学校サイト等で公開する</li> </ul>			

単元計画	○ALTの旅行計画の参考にもうするために、過去の旅行体験について書く活動で、コミュニケーションの目的や場面、状況などに着目し、情報や表現を整理・吟味することを通して、事実や自分の考え、気持ちなどを表現できるようにする。	ねらい	← 対応 →	振り返り	○ALTの旅行計画の参考になるように、スライドに、過去の旅行体験について書くことができたか、ルーブリックを基に自己評価を行う(Googleフォーム)。 ○単元末に生徒はスライドをClassroom上に提出する。 ○後日、ALTは参考にしたいチラシとその理由を発表し、フィードバックを行う。
時	1	・ALTの動画を視聴し、単元ゴールを知る。 ・一般動詞の過去形の用法を理解する。	アプ プ ロ ー チ	→ 対応 ←	まとめ
時	2・3	・一般動詞の過去形を用いて、過去のことについて表現する。	めあて	← 対応 →	解決活動
時	4~6	・フィンランドについての対話文を読んで、概要や要点を捉える。	見通し	← 対応 →	○過去の旅行体験から、相手の要望や条件に応じた内容を選ぶ。 ○旅行体験は過去形を使って表現する。一般動詞の規則動詞はedを付けた形、不規則動詞は適切な形に変えて、正しく書く。
時	7・8(本時)	・ALTに向けて、過去の旅行体験について書く。	めあて	← 対応 →	○事前にノートに書きためた英文や教科書の本文、級友が書いた英文を参考に、目的や場面、状況などに書いた英文は他者参照可能にする。
時	後日	ペーパーテスト	見通し	← 対応 →	○過去の旅行体験について、2~3文の英文で書くことができる。 ○過去の旅行体験について、1文の英文で書くことができる。
ルーブリック	S	A	B	C	
○アーヴィン先生の旅行計画の参考になるように、スライドに、過去の旅行体験について書くことができる。	○目的や場面、状況などを意識して、過去の旅行体験について、「すてき」と思ってもらえるように、事実や自分の考え、気持ちを6文以上(35語以上)の英文で書くことができる。	○目的や場面、状況などを意識して、過去の旅行体験について、事実や自分の考え、気持ちを4~5文の英文で書くことができる。	○過去の旅行体験について、2~3文の英文で書くことができる。	○過去の旅行体験について、1文の英文で書くことができる。	

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用

取組	<p>「オンラインコラボレーションホワイトボードアプリによる共同編集」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1枚のシートに複数のスペースを作成して、個・班・学級・学年など様々な単位で白紙共有（デジタル上の広範囲な模造紙のようなイメージ）</li> <li>付箋機能、意見の共有・構造化、テキストによる長文表現など多様なアウトプットの活動場面</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>1枚のシートに複数のスペースが作成可能</li> <li>大人数のアイデアを同時に参照できた</li> <li>活動の進行・進捗、意見の合意形成・意思決定など、協働性が促進できた</li> <li>Googleジャムボードに比べ表現機能が豊富であり、様々な教科の様々な学習活動において、ワークシートとしての形式や構造、共有手段としての表現の幅が広がった</li> </ul>

2年数学：等積変形の作図、その方法の説明、面積が変わらない理由の説明活動における活動シート

1人分のスペース

線分の書き込み

自由度の高いワークシート作成



1人分のスペース×学級人数分を1枚のシートに作成。他者の取組や成果をいつでも参照可能。

<手順>

- ①直線EGを引く。
- ②EGに平行な直線HFを引く。
- ③HGを結ぶ。

<理由>

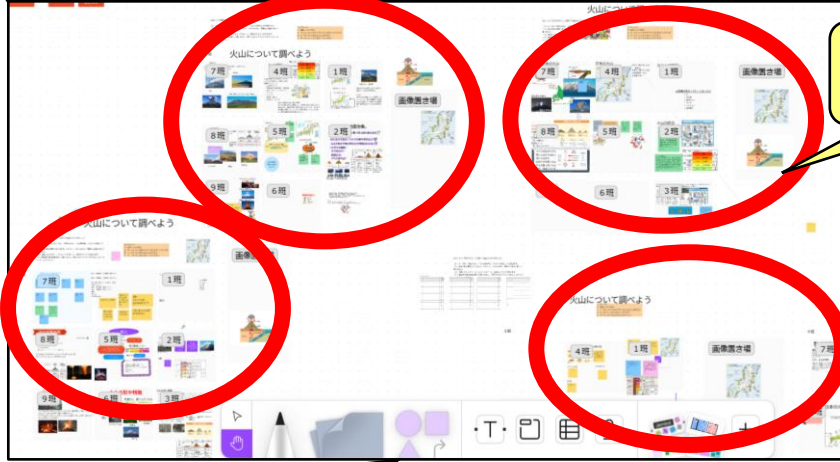
EG//HFより、底辺が共通で、高さが等しい三角形の面積は等しいから、  
 $\triangle EHG = \triangle EFG$   
 五角形CDEFG = 四角形CDEG +  $\triangle EFG$   
 四角形CDHG = 四角形CDEG +  $\triangle EHG$   
 このことから、  
 五角形CDEFG = 四角形CDHG  
 よってHGを境界線としても面積は変わらない。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

大村市立大村中学校（長崎県）

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用

理科：「日本の火山」「火山の形」など複数の課題を複数の集団（学級・班）が1つのシートにまとめる

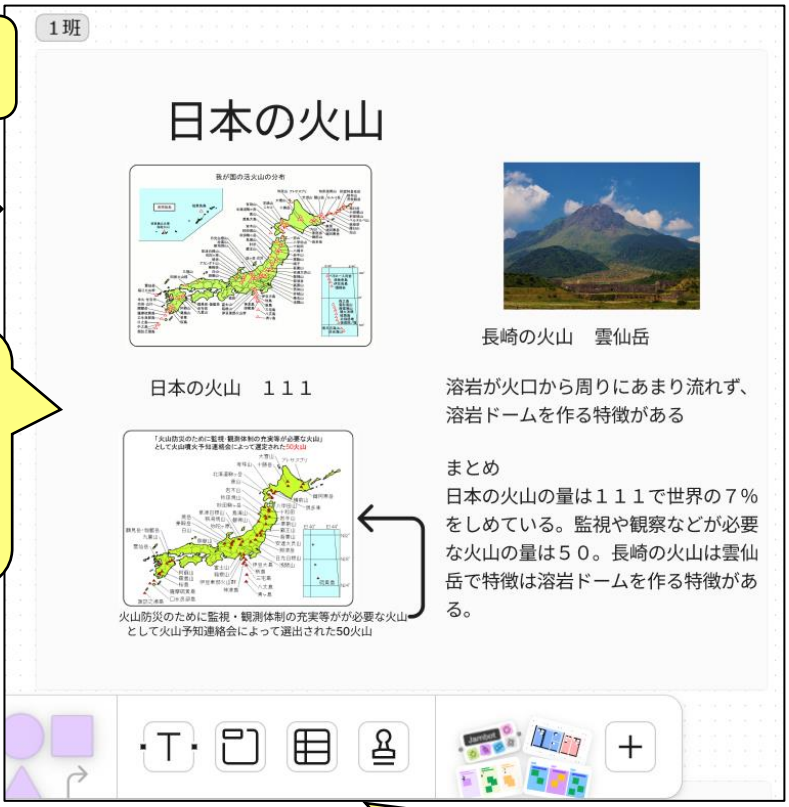


1クラス分のスペース



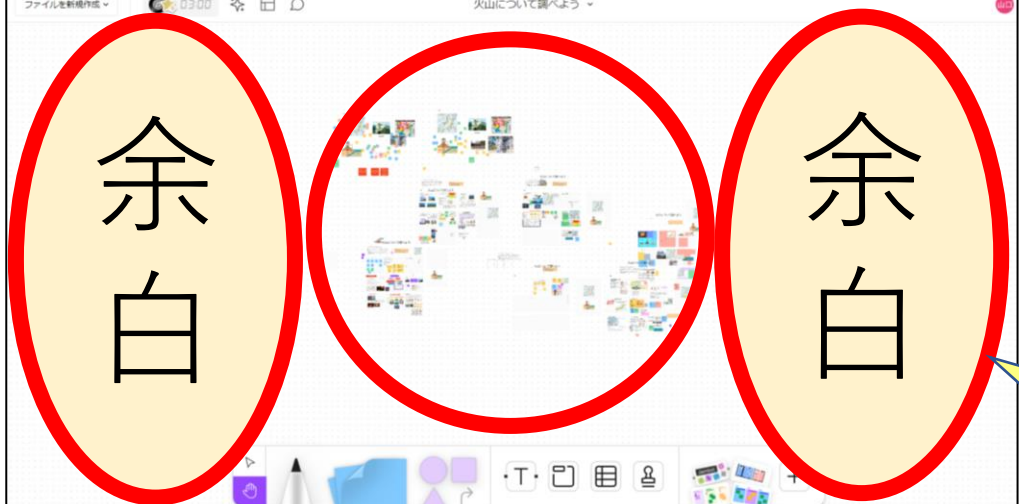
1班分のスペースと取組内容。班のメンバーで共同編集

1クラス（9班分）×学級数分を1枚のシートに作成。取組や成果を学年全体で広く他者参照。

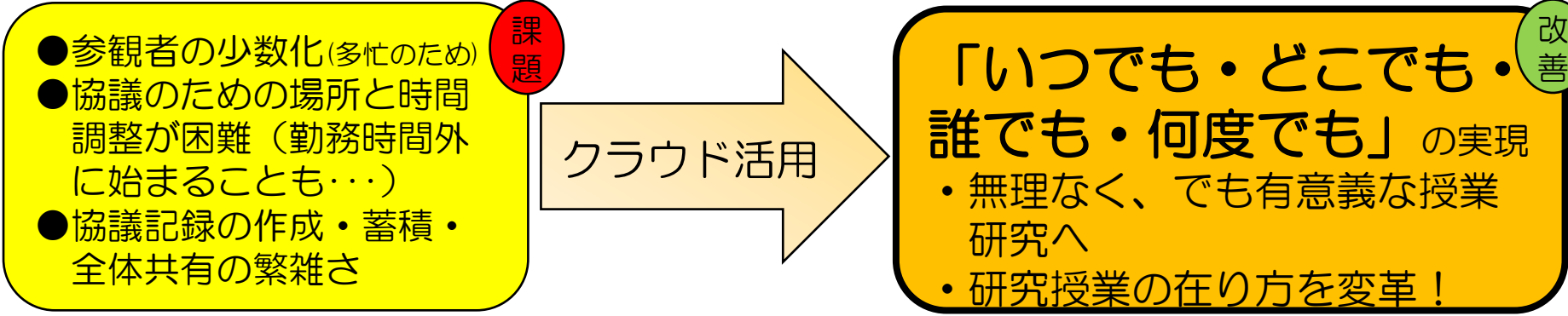


様々な機能が利用可能で活動の幅が広がる

中央の赤丸が1学年分のスペース。さらに余白が広がっており、広範囲な模造紙のような構造。



【取組内容④】「校内研究授業におけるクラウドを活用した授業研究」



<p><b>取組</b> ①</p>	<p>「デジタル資料の共有」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業構想シートの事前共有</li> <li>・ 授業動画や画像の公開</li> </ul>
<p><b>成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○未参観職員も後日視聴可能 ⇒ 全員が同じ話題で協議可能な環境</li> <li>○場面切り出しや繰り返し視聴が可能 ⇒ 課題の焦点化・要点化</li> </ul>

Classroomに投稿。全職員で共有。  
 ・ 授業構想シート(PDF) ・ 授業研究シート(ジャムボード) ・ 公開用の授業動画 ・ 活動の様子が分かる写真 ・ 削除しない限り記録として残る



授業動画を視聴しながら授業研究会を行う職員



【取組内容④】「校内研究授業におけるクラウドを活用した授業研究」

<p><b>取組</b> ②</p>	<p>「Googleジャムボードによる授業研究シートの作成と活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究シートを白紙共有</li> <li>付箋機能で「気付き」のアウトプット</li> <li>授業研究会は月1回（研究授業のたびではなく、まとめて行う）</li> </ul>
<p><b>成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間と空間の調整不要</li> <li>○授業前・授業中・授業後のいつでもアウトプットが可能</li> <li>○気付きを述べる（付箋記入）と同時に集約が可能 ⇒ そのまま記録・蓄積</li> <li>○未参観・未視聴の職員とも閲覧共有可能（追体験ができる）</li> <li>○シートをもとに協議が進行 ⇒ 要点化と時短 ⇒ 集合型研修の回数が減</li> </ul>

授業研究シート・・・「課題」「質問」のシートも作成

◎スライド2枚目...主に参観者が成果（良かった点・効果的な場面等）を付箋で示す。（※貼りながら系統分けするなど工夫する）

**成果**

**動機付け**

- 導入に、わかりやすい文章の具体例を考えさせる
- 一時間の流れがわかりやすく、何をやるのかを明確。（山田）
- ループリックを明らかにして、Sを目標として進めたい
- 「わかりやすい」or「わかりにくい」の両方の文章を、必ず2種類・本文を挿入して考えさせるという課題を設定している。
- 文字カウントというものがありました。ありがたかったです。
- 見直しやループリックが明確で、活動がスムーズ。質疑付けにもなっていました。

問題発見      見直し

**学習方略**

Think

- 根拠を全体で探し出しているため、その根拠が意見文を書く際のヒントとなり、下位の生徒も取り組みやすい。支援もしやすい。（山田）
- 付箋の内容が興味され、積極的に書いている。

生徒たちが自然にグルーピング始める

- 宿題の形、考えの形を自分で調べ、資料の差を埋められている。
- 欠席者の本城が入ってきて、授業に参加している
- 意見文を書く時間にもタブレット端末から作文用紙が活用できてよかった。

多様な学び方

協議シート(スライド)・・・小グループ・全体で共有

6班

DX的には「生徒一人一人が」学びのために使いこなすこと。デジタルで学びの在り方が変わること。

<p>①自律的な学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班単位で共通の課題を解決する場合、<b>平等に自律的な学びは難しい...</b>。（逆に理科の実験は個人だと難しい）</li> <li>・「教え合い」と一言に言っても、平等な学びは難しい...</li> <li>・デジタルも紙も準備となると、<b>教員の準備は増える...</b>？</li> </ul>	<p>②学びに向かう力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班単位の課題は下位層の生徒には有効。</li> <li>・教え合う活動は、言語力の向上には有効。</li> <li>・各教科の<b>評価の基準、材料が気になるところ...</b></li> <li>・教科書の<b>二次元コード</b>読み込んで活用している生徒がいた。</li> </ul>	<p>デジタル活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を以て「<b>デジタル活用</b>」とするのか。</li> <li>・プリントをPDF化してテレビに映す（数学）セクション毎にスライドをまとめ、Retellの時間に、それを使って教員に説明する。<b>蓄積には有効</b>。数学のグラフは難しい。文字入</li> </ul> <p>「紙のみ」よりは減る実感。デジタルでできることが圧倒的に多いはず。（アナログのみはデジタルありと比べてどうしても低量・低速・低質。デジタルでできる範囲までも紙だけでやろうとすると準備は膨大。デジタルメインに紙で補うがベスト。）</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

大村市立大村中学校（長崎県）

## 【取組内容⑤】 実践内容や研修のオンライン公開などによる地域内外への普及

取組	<p>県内のGIGAスクール推進サイト「ながさきGIGAちゃん」へ実践報告書の投稿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修における研修課題として、個人実践の報告書を全職員が作成</li> <li>・当初計画の研修目標にあった「デジタル活用における好事例の創出」と外部発信・普及</li> </ul> <p>年間2回のリアルタイム型公開授業研修会（研究授業の公開、公開カンファレンスの実施、講演会の開催）を実施</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の各職員が一個人として、デジタルを活用した授業改善におけるスキルアップの自覚および現時点での課題の認識ができ、今後のさらなる授業改善に向けて意識が向上した</li> <li>・本校や各個人の実践を県内向けに発信（オンライン公開、リアルタイムの公開授業）して、普及につなげることができた</li> </ul>

### 職員が作成した「実践報告書」の一部

#### ●ICT活用のポイント

- (1) Classroomに課題を提示し、学習者が自分のペースで学習に取り組めるようにした。
- (2) Googleスライド、Jamboard、ドキュメントなどのツールを配付し、生徒自ら使いやすいものを選べるようにした。(Classroomのドライブを利用し他者参照可能)
- (3) 学習に必要と思われる資料(ヒントカード、NHK for school、教科書など)を提示し、生徒自ら情報を得られるようにした。

#### (1) Classroomによる課題の提示

投稿日: 2023/09/19 | 最終編集: 2023/09/19

##### 【作成目的】

①授業計画、授業準備、常に自られているのかそのつながりを明らかにしよう。  
②本業とつながりの関係性、「有難様」という視点でとらえ、まとめよう。

##### ●ポイント

・スライドを直接共有し、生徒の「見比べ・見られる」の関係を築いてみる。  
・関係性を築いた上で、気づいたことや学びがあったことスライドの共有ページにまとめる。

一冊参照資料 | 資料書 p140、141

##### ●ポイント

・生徒の振り返り「有難様」という視点でとらえ、Jamboardまたはワークシートを使ってまとめる。

一冊参照資料 | 資料書 p142

授業の最後に、振り返りシートに記入してください。

①、②に共通する検索キーワード  
海防の伝説(海防の伝説) | [https://www2.nhk.or.jp/school/watch/rdp/17/dw\\_jd-0000481042\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/watch/rdp/17/dw_jd-0000481042_00000)  
③の伝説(海防の伝説) | [https://www2.nhk.or.jp/school/watch/rdp/17/dw\\_jd-0000481278\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/watch/rdp/17/dw_jd-0000481278_00000)

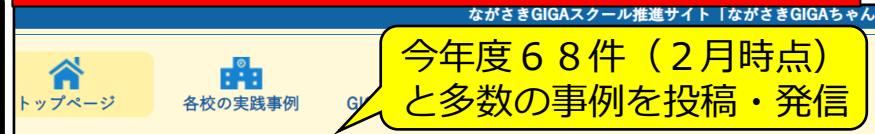
振り返りのフォーム  
<https://forms.gle/UB968Hn8EzYp9P6>

#### (2) 使用ツールの選択

- 例) 【自己探究】遺伝子を扱う技術について、自分はどう思うのか説明できるようにしよう。
- ・ドキュメントを使用



### 県内サイト「ながさきGIGAちゃん」で外部発信



理科におけるGoogleWorkspaceを活用した自律的な学習の手立て

(1) Classroomに課題を提示し、学習者が自分のペースで学習に取り組めるようにした。(2) Googleスライド、Jamboard、ドキュメントなどのツールを配付し、生徒自ら使いやすいものを選べるようにした。(Classroomのドライブを利用し他者参照可能)(3) 学習に必要と思われる資料(ヒントカード、NHK for school、教科書など)を提示し、生徒自ら情報を得られるようにした。

登録日: 2024/02/27 大村市 大村中学校  
分類: 授業実践

英語科におけるペアによる表現活動で用いる ICT 活用

(1) 導入でALTの動画を見せて場面提示する(動機付け) (2) スプレッドシートを用いて同じテーマについて学んでいる級友からヒントを得る。(3) 例題を出し、ジャムボードで学級でアイデアを共有する。(4) ジャムボードでアイデアを出し、ペアで共有する。(5) 動画撮影をして客観視することで修正を加える。(6) 振り返りシート(共有)で次の目標を決め、ステップアップ

登録日: 2024/02/27 大村市 大村中学校  
分類: 授業実践

校務分掌の振り返りと教育課程アンケート

フォームによる校務分掌の振り返りや教育課程アンケート

登録日: 2024/02/27 大村市 大村中学校  
分類: 校務の情報化

社会科におけるJamboardを活用した資料の読み取りやまとめ活動

(1) 事前に資料をJamboardに提示し、資料から読み取れることや気付きを付箋機能で記入させる。雨温図の読み取りは、苦手な生徒が多いため、班で話し合いながら学習を進めた。(2) 思考ツール(ベン図)を活用し、衣食住の視点から日本とイタリアの共通点・相違点をJamboard上に記入させる。(3) フォームに振り返りを記入させる。その内容をスプレッドシートで生徒と共有する。

登録日: 2024/02/27 大村市 大村中学校  
分類: 授業実践

【取組内容⑤】 ストレスマネジメントや自己調整学習のスキルを高めるワーク「勁草」のオンライン公開

<p>勁草のねらい</p>	<p>ストレスマネジメントやABC理論、アサーション等のコミュニケーションスキル、自己調整学習のスキル等のワークを通して、生徒のレジリエンスを高める</p>
<p>内容</p>	<p>○全校で週1回、帰りの短学活の時間を10分間延長して、10分間のワークに取り組みさせる          ○毎回、ワークシートと指導用動画を準備し、クラウド上に保存した指導用動画を各学級で視聴させながらワークに取り組みさせる          ○ワークの例：「ストレスサーモメーター」「リラックス呼吸法」「アドジャントーク」「アクティブリスニング（うめらいす）」「ABC理論」「学習スキル」</p>
<p>オンライン公開</p>	<p>○指導動画をYouTubeで公開（<a href="http://www.youtube.com/@ojh8289">www.youtube.com/@ojh8289</a>）※今年度実施したものは全て公開          ○学校サイト内に「勁草」ページ（<a href="https://www.city.omura.Nagasaki.jp/omuratyu/kenkyu/keiso.html">https://www.city.omura.Nagasaki.jp/omuratyu/kenkyu/keiso.html</a>）を設け、各回のワークシートと指導用動画へのリンクを設定</p>
<p>成果</p>	<p>○オンライン動画で活動を進めることで、各学級担任は、生徒の活動の支援や見取りに専念できる          ○生徒にとっては、「認知を変えて出来事をとらえる」「アサーティブな言い方を心掛ける」など、ワークに取り組んだ内容のスキルを身に付け、実生活で生かそうとしている          ○指導用動画やワークシートを公開することで、他の多くの学校でワークに取り組むことができる</p>

ワークシートの例

ワークシートはオンラインホワイトボードアプリを活用。振り返りはGASを活用し生徒と教師が共有

【エピソード】  
 昼休みに教室で本を読んでいた。するとあなたが読んでる本を友達が急に取り上げてからかってきました。

【アサーションのバターン】  
 ①ありのままの事実を述べる  
 ②自分の意思（考え、気持ち）を伝える  
 ③一緒に解決するための提案をする

0 (あなたの考え)  
 ①（その本は、友達に借りた大切な本なんだ）  
 ②  
 ③  
 それでも、相手が嫌だと反応したとき  
 ④

3 (あなたの考え)  
 ①（その本は、友達に借りた大切な本なんだ）  
 ②今良いところだったから返して  
 ③

4 (あなたの考え)  
 ①（その本は、友達に借りた大切な本なんだ）  
 ②やめてよ今読んでいたじゃん  
 ③そんなによみたいなら見せてやってもいい

指導用動画

指導用動画の冒頭で、ファシリテーターがワークのねらい等を説明する

指導用動画で用いたスライド画面の例。ワークの手順等をスライドに示しながらファシリテーターが音声で説明する

〈ワーク〉アドジャン・トーク

- ① 4人組で、「アドジャン・トーク」のかけ声をかけてじゃんけんをする。じゃんけんは、グー（1本）、チョキ（2本）、パー（3本）、指4本、指5本の5種類を出せる。
- ② 4人の指の本数の合計が5になる順番について、1人ずつ順番に話をする。  
※他の人の話を聴く
- ③ ①、②を5分間繰り返す。その後、やめ、活動して感じたことを話し合